記念講演会の報告

5 月 26 日（日）、和邇公民館で「しがの里山や川を美しくする会」の総会と、報告会　さらに竹内 憲司先生（神戸大学大学院経済学研究科・准教授）による**「スウェーデン の エネルギー政策」**と題する記念講演を開催しました。

【記念講演】:「スウェ―デンのエネルギー政策」 講演者の竹内 憲司先生は 今年 3 月まで客員教授としてスウェーデン第 2 の都市、ヨーテボリに 1 年間滞在しておられました。講演は**大変好評で、沢山の質問が出ました。**

以下講演内容の要約です。南に位置するヨーテボリは、首都ストックホルムに次ぐ人口 50 万人の都市です。内 5 %がヨーテボリ大学の学生。多くの人が一度社会に出てから再度入学して学ぶとの事。
夏は 16°C で白夜。冬は－2～－20°C、地獄のような寒さ。しかも日照時間が午前 9 時から午後 3 時。4 時にはとっぷり暮れて、気が滅入るほどになる。ただ北の方では オーロラの神秘 に感動させられる。

経済状況 : GDP1 人 4 万ドル。失業率 7.5%と高い。福祉国家で知られ、消費税に当たる付加価値税が 25%と、負担が大きいだけ、福祉サービスが行き届いている。福祉国家であるが、経済は好調で、競争社会の為、たとえ大企業でも効率が悪ければ倒産し、国はこれを助ける事はしない。職種別に労働組合が組織され、失業者に対しては、新しい能力を付けるための職業訓練を行う。男女の平等意識が強く、母親の社会参加を妨げない為、育休制度では 18 カ月の育休の内、一定期間は男性が取るべしとなっており、男性が乳母車を押す姿をよく見かけた。また大臣の半数が女性。スウェーデンの子供たちは、米・英の吹き替えなしのバラエティー番組等をよく見るので、英会話は早くから耳にして誰でも話せる。海外の企業に積極的に売り込む必要があって英語を重要視していることからも、上達もはやい。

エネルギー政策 : 燃料事情は日本と良く似ていて、石炭、石油などの化石燃料が殆どなく，現在電力の 80%
を原子力と水力で約半々を占めているが、水力発電中心による 1950 年代環境保護運動が活発化し、1970 年代

に原子力発電に移行、発展してきた。1979 年のスリーマイル島の事故をきっかけに翌年国民投票で 30 年後廃止
が提案された。（これには法的拘束力がなく 2010 年に廃止する事は取り止めになった。）1987 年のチェルノブイリ事故によって、スウェーデンも放射能の影響を受けたので、デンマークに近い原子炉を廃炉にした。現在 10 基稼働している。国土の 70%が森林なので、地域暖房にバイオマスエネルギーを取り入れ始め、洋上発電も始まっている。リサイクルにあまり熱心でないが、空き容器の回収はデポジット方式で消費者にリサイクルを勧めている。大手電力会社（バッテンホール）の送電網を通じて、地域エネルギー会社に送電され、その会社の送電網によって消費者に配電される。発電と送電が分離されているところは日本と違う。水力発電のウエイトが高いこともあって、

☆**再生可能エネルギーは47%と驚異的な数字です。**